

原爆死没者追悼平和祈念館
運営企画検討会資料
(第 18 回)

- 資料 1 令和元年度の事業実施状況（広島）
- 資料 2 令和元年度の事業実施状況（長崎）
- 資料 3 令和 2 年度の事業計画（広島）
- 資料 4 令和 2 年度の事業計画（長崎）
- 資料 5 入館者からの感想や意見・要望等（広島）
- 資料 6 入館者からの感想や意見・要望等（長崎）

令和元年度の事業実施状況

広島祈念館 1頁～11頁

令和元年度 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の事業実施状況

1. 入館者状況

開館（平成14年8月）以来、令和2年3月末までの入館者数は、4,592,818人となっており、同期間の平和記念資料館入館者（24,151,004人）の19.0%である。

【 過去3年間の月ごとの入館者数を10ページに記載 】

（参考）年度別入館者数

区分	入館者数	1日平均 入館者数	対前年比	外国人（内数）	
				入館者数	対前年比
平成29年度	401,892人	1,107人	117.7%	116,456人	148.1%
平成30年度	433,912人	1,195人	108.0%	159,312人	136.8%
令和元年度	379,163人	1,142人	87.4%	145,233人	91.2%
累計	4,592,818人		—	—	—

※ 外国人入館者数とは、総合案内において外国語版のリーフレット又はチラシを配布した人数を集計している（平成24年度から集計開始）。

※ 令和元年度は新型コロナウイルス感染予防及び拡散防止のため、2月29日から3月31日まで臨時休館した。

2. 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開

広島県内各市町での葬祭料給付申請時や、平和記念式典への参列案内時に遺影登録の案内をするほか、8月1日から6日まで原爆死没者名簿への登載確認等との共同窓口の設置をしている。また、被爆者証言ビデオの収録や被爆体験記執筆補助事業などの機会をとらえ、登録申請を呼びかけた。さらに、著名人の遺影登録に際し、マスコミに情報提供するなど遺影登録の周知を図った。

（参考）年度別登録状況

区分	原爆死没者数（登録数）	対前年比
平成29年度	714人	94.9%
平成30年度	677人	94.8%
令和元年度	769人	113.6%
累計	23,789人	—

3. 被爆体験記等の収集・整理・公開

被爆者の高齢化等により年々新規収集が困難な状況にあるが、広報紙への掲載やマスコミへの情報提供のほか、被爆者証言ビデオ収録などの機会をとらえて被爆体験記の提供を呼びかけるとともに、体験記執筆補助事業（平成 18 年度開始）により収集に努めた。また、新聞等に掲載された被爆体験記の記事を確認し、発行者等へ照会して、寄贈又は購入の依頼を行った。

収集した被爆体験記については、より一層の活用を図るため、データベース化、イメージデータ化及びテキストデータ化を推進し来館者の利便性の向上を行った。

（参考）年度別被爆体験記収集状況

区分	体験記収集数（編）					図書収集（冊）		公開数（編） （注1）
	H7 厚生省	H17 厚労省	H27 厚労省	独自収集	計	購入	寄贈	
平成 29 年度	0	0	0	72	72	37	59	11,349
平成 30 年度	0	0	0	33	33	140	71	39
令和元年度	0	0	-5	74	69	142	83	139
累計	81,205	11,778	11,346	3,379	107,708	2,001	3,101	147,423

（注1）被爆体験記として収集後、内容を整理・精査し登録対象外とする場合があり、また収集年度と公開年度が異なる場合があるため、各年度の収集数と公開数は一致しない。

（参考）被爆体験記のデータベース化等の進捗状況

区分	編数	割合
館内公開体験記数	147,419	—
データベース化（注2）	138,717	94.1%
イメージデータ化（注3）	107,623	
テキストデータ化（注4）	2,288	

（注2）データベース化とは、来館者が閲覧を希望する被爆体験記を容易に検索できるよう、被爆体験記に書かれている情報に基づき、被爆者の氏名、年齢、所属及び被爆場所、登場する人物、場所及び時期などを、職員が分類・整理し、システムに登録する作業をいう。

（注3）イメージデータ化とは、館内公開している被爆体験記を、展示端末画面で容易に閲覧できるよう、被爆体験記をスキャンしてシステムに登録することをいう（平成 24 年度から実施）。

（注4）テキストデータ化とは、被爆者が手書きで書いた被爆体験記を読みやすく、また、将来、多種多様なキーワードにより検索が可能となるよう、被爆体験記を文字入力する作業をいう（平成 24 年度から本格的に推進）。

4. 企画展の開催

情報展示コーナー（地下1階）において、毎年定めるテーマに沿って企画展を開催する。関連資料を展示し、被爆体験記をディスプレイで閲覧できるようにするとともに、被爆者の証言映像及び被爆者自身が描いた「原爆の絵」等を交えた映像作品を制作し上映する。また、映像資料はインターネットに掲載するとともに、平和学習資料としてDVDや資料の貸出を行っている。

(1) 「流燈 広島市女原爆追憶の記 最も多くの犠牲を出した女学校の記録」

期間：平成31年1月1日(火)～令和元年12月29日(日)

概要：1945年4月以降、戦局の悪化に伴い中学生以上の

授業は中止され、生徒たちは食糧生産や軍需工場に動員されていた。原爆投下時に爆心地に近い屋外で建物疎開作業をしていた生徒の被害は甚大で、1～2年生のほぼ全員が動員された広島市立第一高等女学校（現在の市立舟入高等学校）では666名の生徒が亡くなり、建物疎開作業に動員された学校の中で犠牲者数は最大となった。13回忌の1957年8月、追悼集『流燈』が遺族により刊行され、遺族の追憶の記とともに、生徒らの遺稿も掲載された。企画展では、『流燈』に掲載された体験記を中心に遺影や関連資料を展示し、戦争や原爆の悲惨さ、平和の大切さを伝える。

（被爆体験記28編、関連資料5点、原爆死没者の遺影353名）



(2) 「時を超えた兄弟の対話 ―ヒロシマを描き続けた四國五郎と死の床でつづいた直登の日記―」

期間：令和2年1月1日(水)～12月29日(火)（予定）

概要：画家としての才能を、反戦・核兵器廃絶を訴えることに全て捧げた四國五郎（1924-2014）。そのきっかけは、最愛の弟・直登（1927-1945）が原爆により18歳で短い生涯を閉じたことだった。企画展では、被爆当日から亡くなる前日まで、病床でつづられた弟・直登の日記を中心に、兄・五郎の追悼文や作品を紹介しながら、時を超えた2人の対話を再現した。（3面シアター映像約30分、四國直登の日記（現物）と四國五郎実作品約20点、館長論文及び四國五郎の追悼記、作品集等）



5. 被爆体験記執筆補助

被爆者の高齢化に対応し、体験記を残す意欲がありながら高齢等により体験記の執筆が困難な広島県内の被爆者を対象に、職員による聞き取りと代筆を行った。(平成18年度開始)

(参考) 年度別実施状況

区分	応募数	実施者数	辞退数 (体調不良等)
平成29年度	11人	10人	1人
平成30年度	9人	8人	2人
令和元年度	13人	11人	3人
累計	176人	154人	24人

※ 平成30年度及び令和元年度の実施者には前年度応募者1名ずつ含む。



被爆当時の地図などを見ながら被爆体験を聞き取りします

6. 被爆者証言ビデオ（国外在住被爆者）制作

被爆体験を次の世代へ継承するため、被爆後国外で生活を送られた方々の体験談をビデオに収録し、編集作業を行った。制作した証言ビデオは令和2年6月から館内の体験記閲覧室で公開する。

これまでは、主に、渡日治療などで広島を訪れる被爆者を対象に制作していたが、治療目的で広島を訪れる被爆者が減少し、出演していただける証言者をお願いすることが困難な状況になっている。令和元年度は、アメリカ在住の被爆者(広島5人)に証言をお願いし、収録を行った。



ロサンゼルスで証言を収録しました

(参考) 年度別制作状況

区分	国・地域	実施人数
平成29年度	韓国(3人)、アメリカ(3人)	6人
平成30年度	韓国(1人)、アメリカ(5人)	6人
令和元年度	アメリカ(5人)	5人
累計	韓国(34人)、台湾(4人)、アメリカ(18人)、アルゼンチン(1人)、オーストラリア(1人)、カナダ(2人)(うち1人は日本語、英語で2本収録)、ブラジル(5人)、メキシコ(2人)	68人 (68本)

7. 被爆者証言ビデオ（広島県外在住被爆者）制作

被爆体験を次の世代へ継承するため、被爆者団体等から推薦された被爆者を対象に、長崎祈念館と協力（長崎被爆者7人は長崎祈念館が収録・編集を担当）し、その体験談をビデオに収録（令和元年9～12月）し、編集作業を行った。制作した証言ビデオについては、令和2年6月から館内の体験記閲覧室で公開する。



カメラを前に被爆体験を語ってもらいます

（参考）年度別制作状況

区分	実施人数	収録都道府県
平成29年度	12人	北海道5人、栃木1人、埼玉2人、千葉2人、東京1人、神奈川1人
平成30年度	10人	北海道4人、岩手1人、福島1人、東京4人
令和元年度	18人	福島1人、埼玉2人、東京3人、神奈川8人、愛知4人
累計	379人	45都道府県で収録（広島県及び長崎県を除く。）

8. 多言語化対応事業

海外から来館する多くの人に、母国語で被爆の実相を伝えるため、令和元年度は被爆者証言ビデオの証言内容を英語、中国語、韓国・朝鮮語、アラビア語、クロアチア語、ドイツ語、ハンガリー語、フランス語、ヘブライ語、ロシア語の10言語に翻訳した。（証言ビデオの字幕翻訳言語数は23言語）

また、被爆体験記を英語、中国語、韓国・朝鮮語、ヘブライ語の4言語に翻訳した。

（被爆体験記の翻訳言語数は24言語）

（多言語化の詳細を11ページに記載）

9. 被爆体験記の朗読事業

収集した被爆体験記を活用し、戦争や原爆の恐ろしさ、平和の大切さを語り継ぐことを目的に平成17年度から実施している。

修学旅行生や市内の学校などを対象とした朗読会、毎月第3日曜日に開催する定期朗読会、毎月第2日曜日及



追悼平和祈念館での定期朗読会

び第4金曜日に開催する定期英語朗読会、多くの来館者が見込まれる時期での集中開催、市内近郊への出前朗読会及び国際交流担当部署との連携により、海外からの来館者を対象とした英語朗読会（平成19年度から実施）も開催した。また、全国で朗読会を開催したいとの要望に応えるため、朗読セットを国内15団体へ貸し出した。

（参考）年度別開催状況 （単位：回）

区分	広島市内	定期	集中開催 8月5日～6日 5月3日～5日	原爆展	英語朗読 （英語定期 含む）	計
平成29年度	151	22	13	国内5	35	226
平成30年度	125	24	13	国内5海外1	51	219
令和元年度	94	22	13	国内2海外2	41	174

1.0. 被爆体験伝承者等の派遣

被爆の実相、平和への想いを日本全国の次世代に語り継ぐために、「被爆体験伝承者」と「被爆体験記朗読ボランティア」を、平成30年度から国内の学校等へ無料で派遣し、被爆体験伝承講話及び被爆体験記朗読会を実施した。

令和元年度は、全国に446件（伝承講話395件 朗読会51件）派遣した。この派遣による講話及び朗読会において約8万人の児童・生徒等が聴講した。

（参考）地域別派遣件数 （単位：件）

区分	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計
件数	11	43	121	56	133	48	18	16	446

（参考）申込団体別派遣件数及び聴講者数 （単位：件・人）

区分	小学校	中学校	高等学校	大学	自治体	その他	計
件数	191	145	59	6	23	22	446
聴講者数	20,119	32,130	20,903	492	2,828	2,619	79,091

また、海外在住（1名）の被爆体験伝承者による伝承講話の開催（1件）、ロシアのボルゴグラード市に被爆体験伝承者（1人）及び朗読ボランティア（2人）を派遣し、海外の人々と核兵器の恐怖や非人道性の認識について共有を図った。

- ・被爆体験伝承講話 1回 162人参加
- ・被爆体験記朗読会 2回 114人参加

1.1. 被爆体験伝承者等に対する語学等の研修

上記10の被爆体験伝承者等の海外派遣において、被爆の実相を正確に伝えることができるよう語学力の向上を図るため研修を実施した。

被爆体験伝承者 20回、 被爆体験朗読ボランティア 13回

1.2. 修学講習の実施

被爆体験の次の世代への継承と平和意識の高揚を図るため、修学旅行などで広島を訪れた児童・生徒等を対象に、被爆者による被爆体験講話等を内容とする講習を追悼平和祈念館研修室で行った。

(令和元年度実施状況)

区分	小学校	中学校	高等学校	その他	計
件数	276	71	24	210	581
聴講者数	15,983	3,942	1,618	6,009	27,552
1団体あたりの平均聴講者数	57.91	55.52	67.42	28.61	47.42

1.3. 広島平和学習セミナーの開催

平和学習を目的として多くの修学旅行生に来館してもらうため、広島市と共同で学校関係者及び旅行会社(教育旅行部門)を対象に、広島での平和学習や体験学習などを紹介する広島平和学習セミナーを開催した。

広島修学旅行プラン、平和記念資料館のリニューアル、被爆体験継承の取組を紹介し、さらに被爆体験伝承講話及び被爆体験記朗読会の実演を行った。

参加者からは、「広島修学旅行プランのモデルコースが参考になった」、「より平和学習に関心が持てた」、「実演を実際に聴いて感動した。生徒への修学旅行の事前・事後学習に生かしたい」、「朗読がこんなにも心に訴える力があることを実感した」などの意見が寄せられた。

(参考) 年度別開催状況

区分	開催都市		参加者
平成29年度	さいたま市	平成29年9月20日	23人
	宇都宮市	平成29年9月21日	19人
平成30年度	東京都(新宿)	平成30年7月24日	28人
	東京都(秋葉原)	平成30年7月25日	22人
令和元年度	東京都	令和元年8月21日	25人
	名古屋市	令和元年8月22日	13人



被爆体験伝承講話と被爆体験記朗読会を実演しました

14. インターネットによる情報提供

広島祈念館の事業内容を、ホームページで広く情報提供するとともに、外部提供について同意の得られた被爆体験記及び被爆者証言ビデオを、順次、ホームページ（平和情報ネットワーク <http://www.global-peace.go.jp/>）に掲載し情報発信した。

また、スマートフォンやタブレット端末等の普及・多言語による情報発信、セキュリティ強化等に対応するため、令和2年度のホームページリニューアルを目指して基本設計を行った。

（参考）ホームページ公開状況

11 インターネットによる情報提供 グローバルネットワーク（平和情報ネットワーク）掲載本数及び編数

区分	被爆体験記					証言ビデオ				
	H28年度まで	H29年度	H30年度	R元年度	総掲載編数	H28年度まで	H29年度	H30年度	R元年度	総掲載本数
1 日本語	516	48	277	26	867	554	25	32	27	638
2 英語	108		25	20	153	142	8	6	6	162
3 中国語	79		23	13	115	140	7	9	3	159
4 韓国・朝鮮語	79		23	12	114	143	8	17	2	170
5 アラビア語	9				9	5		1	1	7
6 イタリア語	9				9	8		2		10
7 インドネシア語	9				9		5			5
8 ウルドゥー語	9				9	5				5
9 オランダ語	6		3		9	6				6
10 ギリシャ語	6				6					0
11 クロアチア語					0	1		1	1	3
12 スウェーデン語	9				9	3				3
13 スペイン語	9				9	8	2	2		12
14 スロベニア語					0	3	1	2		6
15 タイ語	9				9	3				3
16 ドイツ語	9				9	25	2	7	4	38
17 ノルウェー語		0	5		5		0			0
18 ハンガリー語		2			2		1	4	1	6
19 ヒンディー語	9				9	3		1		4
20 フィリピン語	9				9		3			3
21 フィンランド語	6				6					0
22 フランス語	9				9	22	7	3	3	35
23 ベトナム語	6		3		9					0
24 ポーランド語	9				9		1	1		2
25 ポルトガル語	9				9	7		2		9
26 マレー語	9				9	3				3
27 モンテネグロ語		2			2		0			0
28 ロシア語	9				9	8	1	1	1	11
合計	941	52	359	71	1,423	1,089	71	91	49	1,300

（参考）平和情報ネットワーク総アクセス件数

区分	総アクセス件数
平成29年度	4,349,076
平成30年度	5,780,021
令和元年度	5,526,862

15. 情報展示システムの保守・管理並びに展示整備基本構想の策定

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性を確保するため、情報展示システムの保守・管理を行った。

また、中長期的観点から建物・展示更新の視点も含めた「情報システム機器更改・展示整備基本構想」を長崎祈念館とともに策定した。

16. 中長期修繕計画の策定

平成14年の開館から18年が経過し、建物や設備の老朽化が顕著となっているため、令和2年度以降30年間の修繕計画を策定した。

17. 来館者増加対策等

多くの来館者が予想されるため、平和記念資料館と合わせて開館時間の拡大を行った。

また、平和推進担当及び国際交流担当部署等との連携により、海外からの来館者の施設案内を行うとともに、広島平和記念資料館及び観光担当部署との連携により、観光事業従事者研修会、観光ボランティアガイド養成講座及び教育関係者招聘事業などの機会を利用して施設案内及びPRを行った。

今後とも、感想ノート等により、来館者の声に耳を傾け、来館者サービスの向上を図るとともにあらゆる機会を捉え、広報紙、ホームページや新聞等のマスコミを通じて積極的にPRを行う。

(参考) 開館時間の拡大による効果

区分	効果（来館者の増）		拡大理由
5月3日～5日	8:30～18:00→ <u>20:00</u>	372人	フラワーフェスティバル開催期間
8月10日～18日	8:30～19:00→ <u>20:00</u>	290人	資料館リニューアルに伴う混雑が予想される夏休み期間

18. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた取り組み

- ・総合案内のレイアウト変更など：リーフレットの手渡しを中止した。
- ・臨時休館：令和2年2月29日から3月31日まで（以降も継続）
- ・主催事業の中止・延期：被爆体験記の朗読会などを中止した。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の入館者数について（平和記念資料館との比較）

平成29年度

区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比
H29 4月	32,508	158,681	20.5%	117.4%
5月	37,728	211,136	17.9%	101.8%
6月	27,503	130,032	21.2%	94.6%
7月	27,348	119,397	22.9%	94.1%
8月	42,294	207,272	20.4%	98.8%
9月	33,629	138,233	24.3%	110.5%
10月	49,744	196,163	25.4%	138.3%
11月	48,298	183,037	26.4%	136.6%
12月	23,309	81,240	28.7%	136.0%
H30 1月	22,037	66,620	33.1%	137.7%
2月	21,617	65,477	33.0%	142.7%
3月	35,877	123,635	29.0%	139.4%
合計	401,892	1,680,923	23.9%	117.7%
累計	3,779,743	20,869,805	18.1%	—

平成30年度

区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比
H30 4月	44,270	153,848	28.8%	136.2%
5月	51,557	201,355	25.6%	136.7%
6月	35,451	119,766	29.6%	128.9%
7月	29,146	86,579	33.7%	106.6%
8月	43,998	163,441	26.9%	104.0%
9月	36,987	121,771	30.4%	110.0%
10月	48,457	181,407	26.7%	97.4%
11月	42,801	164,361	26.0%	88.6%
12月	22,752	77,588	29.3%	97.6%
H31 1月	21,013	62,487	33.6%	95.4%
2月	19,923	61,240	32.5%	92.2%
3月	37,557	128,610	29.2%	104.7%
合計	433,912	1,522,453	28.5%	108.0%
累計	4,213,655	22,392,258	18.8%	—

令和元年度

区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比	資料館 対前年度比
H31 4月	52,216	180,830	28.9%	117.9%	117.5%
R元 5月	48,616	241,864	20.1%	94.3%	120.1%
6月	32,484	150,107	21.6%	91.6%	125.3%
7月	29,592	130,919	22.6%	101.5%	151.2%
8月	43,305	213,606	20.3%	98.4%	130.7%
9月	36,290	164,579	22.1%	98.1%	135.2%
10月	46,382	237,213	19.6%	95.7%	130.8%
11月	37,643	197,984	19.0%	87.9%	120.5%
12月	19,681	94,291	20.9%	86.5%	121.5%
R2 1月	17,805	79,230	22.5%	84.7%	126.8%
2月	15,149	68,123	22.2%	76.0%	111.2%
3月	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
合計	379,163	1,758,746	21.6%	87.4%	115.5%
累計	4,592,818	24,151,004	19.0%	—	—

8.多言語化対応

区分	被爆体験記		証言ビデオ				リーフレット 翻訳言語状況 (◎はR元年度新規作成)
	翻訳編数 (A)	(A)のうち R元年度新規 追加(作成)編 数	字幕付本数 (B)	(B)のうち R元年度新規 追加(作成)本 数	吹替え本数 (C)	(C)のうちR元 年度新規追加 (作成)本数	
1	英語	398	7	803	5	105	○
2	中国語	323	7	160	3	105	○
3	韓国・朝鮮語	322	7	158	1	105	○
4	アラビア語	9		8	2		○
5	イタリア語	9		10			○
6	インドネシア語	9		5			◎
7	ウルドゥー語	9		5			◎
8	オランダ語	9		3			○
9	ギリシャ語	9					
10	クロアチア語			3	1		
11	スウェーデン語	9		3			◎
12	スペイン語	9		12			○
13	スロベニア語			6			
14	タイ語	9		3			○
15	ドイツ語	9		33	4		○
16	ノルウェー語	5					
17	ハンガリー語			6	1		
18	ヒンディ語	9		4			○
19	フィリピン語	9		3			◎
20	フィンランド語	6					
21	フランス語	9		30	3		○
22	ヘブライ語	9	5	5	5		○
23	ベトナム語	9					○
24	ポーランド語	9		5			○
25	ポルトガル語	9		9			○
26	マレー語	9		3			◎
27	ロシア語	9		6	1		○
合計編・本数(作成)		1,225	26	1,283	26	315	0
合計言語数(作成)		24	4	23	10	3	0
							21

※1 上記以外にも平成29年度は、海外原爆展への協力事業として字幕付き証言ビデオ【ハンガリー語(1本)及びモンテネグロ語(1本)】を製作した。しかし館内システムやグローバルネットワークでの公開は行っていないため、合計編・本数及び合計言語数から除いている(2018年3月末日現在)

令和元年度の事業実施状況

長崎祈念館 1頁～14頁

長崎祈念館の事業実施状況

1. 入館者状況

開館（平成15年7月）以降、令和2年3月末までの入館者数は、1,843,244人（一日平均306人）となっており、同期間の長崎原爆資料館入館者数（11,524,703人）の16.0%である。

（参考）年度別入館者数

年 度	入館者数（1日平均）	対前年比	外国人（内数）	
			入館者数	対前年度比
平成29年度	134,010人（370人）	101.5%	—	—
平成30年度	139,105人（384人）	103.8%	35,194人	—
令和元年度 ^(注)	147,467人（474人）	106.0%	40,111人	114.0%
累計	1,843,244人（306人）	—		

（注）令和元年度は、平成31年4月1日～令和2年2月28日までの入館者数

※ 外国人入館者数とは、総合案内における外国語版のリーフレット配布数割合による人数（平成30年度から集計開始）

※ 令和元年度は、上記注釈でも示したとおり、新型コロナウイルス感染拡大防止の措置で約1か月間臨時休館となったが、開館以来最多の入館者数となった。「平和案内人」や原爆資料館との連携や、館外の入口に館の案内掲示をする等従来からの来館者増対策実施に加え、特に修学旅行生による平和集会の利用増やローマ教皇来崎にも起因する海外からの旅行者増が、来館者増の主な原因と考えられる。その他（来館者増対策等）の項参照

2. 原爆死没者の氏名・遺影の収集状況

原爆死没者を追悼し、被爆の実相を後世に伝えていくために、氏名・写真（遺影）を募集し、情報システム登録のうえ館内公開している。市、全国の原爆対策担当部署、マスコミ等を通じての周知により、遺族等から、登録を受け付ける。被爆者証言映像制作等の他事業の施行に併せて被爆者団体等への周知を強化し収集増に努めている。

（参考）年度別登録状況

年 度	登録された原爆死没者数	対前年比
平成29年度	285人	84.3%
平成30年度	343人	120.4%
令和元年度	329人	95.9%
累計	9,698人	—

※ほぼ横ばい状態である。引き続き関連団体に周知を行い、登録数の増加に努めたい。

3. 被爆体験記等の収集・整理状況

被爆の実相を後世に伝えていくために、被爆手記・体験記を収集し、情報システム登録やデータ化等の整理のうえ館内のほか「グローバルネット」等で公開している。マスコミ等を通じての周知、募集により、本人や遺族等から寄贈を受けるとともに、高齢等で執筆困難な場合は執筆補助を行なう。被爆者証言映像制作等の他事業の施行に併せて被爆者団体等への周知を強化し収集増に努めている。

(参考) 実績 (収集状況)

年 度	収集数	対前年比
平成 29 年度	27 人分	260.7%
平成 30 年度	58 人分	37.0%
令和元年度	124 人分	213.8%
累計	1,456 人分	—

※ 令和元年度は、長崎市の協力を得て、長崎市内の被爆者に収集事業周知のチラシ配布したことなどから、平成 30 年度の 2 倍以上の収集数となった。今後も自治体などと協力して、被爆者に直接働きかけをし、収集増につなげていきたい。

4. 企画展の開催

テーマを定め、祈念館が所蔵する被爆体験記の中から選び、英語、韓国・朝鮮語、中国語に翻訳し遺影・手記閲覧室にコーナーを設けてゆっくりと閲覧できるようにしたうえで、企画展を開催した。展示後は編集等行い、体験記朗読に活用する。

(参考) 企画展実績

○第 9 回企画展「女性たちの原爆」

期間：平成 31 年 1 月 30 日～令和 2 年 3 月 31 日

(臨時休館のため、実質は令和 2 年 2 月 28 日まで)

概要：女性たちが綴った手記や資料、及び厚生省（当時）が収集し、当館で公開している手記を展示し、女性であるがゆえに味わった多くの苦悩と、原爆の惨状、平和への思いを伝える。



第 9 回企画展「女性たちの原爆」の展示風景

5. 被爆体験記執筆補助

体験記を残す意欲を持ちながらその執筆が困難な被爆者を対象として聞き取りと代筆を行い、体験記の収集増に努めた。

(参考) 実績 (収集状況)

年 度	収集数
平成 29 年度	2 人
平成 30 年度	6 人
令和元年度	56 人
累 計 (平成 17 年度から)	75 人

※ 令和元年度は長崎市の協力を得て、長崎市内の被爆者へ直接協力をよびかけたことにより、多くの体験記が集まった。今後も自治体などと協力し、収集に努めていきたい。



執筆補助の様子 (向かって右は祈念館職員)

6. 被爆者証言映像等の制作

被爆の実相を後世に伝えていくために、地元放送局等に業務委託して、被爆体験に係る証言映像を制作・収集し、情報システム登録のうえ館内のほか「グローバルネット」等で公開している。被爆者団体等の協力・紹介を得て、制作・収集の増に努めている。

(参考) 被爆者証言映像実績 (制作・収集状況)

年 度	収録数	対前年比
平成 29 年度	15 人 (うち海外 6 人)	125.0%
平成 30 年度	15 人 (うち海外 8 人)	100.0%
令和元年度	20 人 (うち海外 7 人)	133.3%
累 計	476 人 (うち海外 67 人)	—

※海外内訳

韓国 12 人、アメリカ 22 人、ブラジル 20 人、カナダ 5 人、ボリビア 3 人、メキシコ 1 人、ペルー 1 人、アルゼンチン 1 人、パラグアイ 1 人、オランダ 1 人

7. 被ばく医療情報の提供

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 (原爆後障害医療研究所国際保健医療福祉学研究分野) の協力のもと、世界の放射線事故情報、放射線 Q & A 等を含めた被ばく医療情報を館内や「グローバルネット」で広く提供するほか、館内の交流ラウンジにおいて、被爆者を対象とした健康講話 (「被爆者健康講話」。被ばく医療研究の成果として、高齢となる被爆者の健康維持に資する情報を親しみやすいテーマにして提供) を行っている。平成 24 年度からは、館内での講話に加え、長崎県、五島市の協力を得て、多くの被爆者がいる長崎県内離島部 (五島市) とインターネットで結んで講話を中継する取り組みを実施し、多数の参加を得ている。また、海外原爆展において被ばく医療情報パネルを作成し、放射線 Q & A の冊子などとともに展示している。

(参考) 実績 【被爆者健康講話】

年度	回数	利用者数		
		長崎会場	五島会場	合計
平成 29 年度	10 回	455 人	143 人	598 人
平成 30 年度	10 回	413 人	133 人	546 人
令和元年度	9 回	439 人	119 人	558 人
累計 (H20 年度開始)	118 回	4,059 人	1,218 人	5,277 人

※全平均受講者数 44.7 人/回、平成 31 年度は 62.0 人/回

※令和元年度講話テーマ (抜粋)

『知って得する健康クイズ』(第 1 回)、『一石二鳥!? 運動×頭の体操で健康な毎日を』(第 3 回)、『もの忘れのお話』(第 6 回)、『薬と健康』(第 7 回)、『糖尿病』(第 9 回) ほか ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため第 10 回は中止

<講座会場の様子>



第 1 回被爆者健康講話 (祈念館会場)



(五島会場)

8. 平和へのメッセージ収集、整理状況

平和への行動に参加してもらうため、来館者自身が文字や絵によるメッセージを作成し、祈念館が収集、公開する。メッセージは祈念館で長期間保存され、いつでも館内で閲覧ができる。館内のタブレット端末や用意されたカードに自由に記入するものと、画用紙などに記入して祈念館に持参するものがある。

(参考) 実績

年 度	収集登録数
平成 29 年度	4,185 件
平成 30 年度	4,219 件
令和元年度	3,762 件
累計	89,185 件



タブレット端末でのメッセージ入力
(情報コーナー2)

9. 海外原爆展の開催

「原爆の惨禍に関する全世界の人々の理解を深め、その体験を後代に継承するための施設」としての祈念館の位置づけ、特に長崎祈念館の「国際協力及び交流」機能に鑑み、被爆の実相を広く世界に伝えるため、被爆60周年という節目の年にあたる平成17年度から実施している。令和元年度はアメリカで実施した。

また、広島・長崎の両市が主催してアメリカで実施したヒロシマ・ナガサキ原爆展に、当館で製作した被爆体験記集英語300冊を提供した。

○開催場所

バレンシア カレッジ イーストキャンパス (オーランド市)

オーランド公共図書館 (オーランド市)

○被爆体験講話

清野定廣氏(長崎被爆者：非核特使)による講話をオーランド市のバレンシア カレッジ イーストキャンパスで2回、オーランド公共図書館で1回、ウィンターパーク公共図書館で1回、計4回実施。

○外務省、広島市、長崎市などの協力が得られた。オープニングレセプションにはバレンシア カレッジ関係者、在留邦人などが出席し、交流を図った。開催期間中、5,600人の来場を得ることができた。



オープニング レセプション



展示会場



被爆体験講話

(参考) 開催実績 (過去3年)

年度	会場	場所	期間	来場者数
平成29年度	ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学	ハノイ市 (ベトナム社会主義共和国)	9月25日 ～11月5日	7,169人
平成30年度	ポルト市庁舎	ポルト市 (ポルトガル共和国)	10月1日 ～11月30日	7,458人
令和元年度	バレンシア カレッジ イーストキャンパス	オーランド市 (アメリカ合衆国)	10月7日 ～10月11日	3,000人
	オーランド公共図書館	オーランド市 (アメリカ合衆国)	10月14日 ～11月2日	2,600人

※これまでの開催実績 【開催国・都市数】 13 か国・21 都市

アメリカ 4 都市、スペイン 1 都市、ベルギー 1 都市、マレーシア 1 都市、オランダ 1 都市、トルコ 2 都市、ロシア 1 都市、アイスランド 2 都市、ニュージーランド 2 都市、カザフスタン 3 都市、ドイツ 1 都市、ベトナム 1 都市、ポルトガル 1 都市

【来場者数】 117,250 人

10. 収集資料の多言語化

当館外国語ネイティブスタッフにより、英語、韓国・朝鮮語、中国語を中心に被爆体験記、証言映像等収集資料の翻訳や吹替えを行い、簡易製本化や情報システムへの登録のうえ、館内での公開のほか、「グローバルネット」等で広く世界に発信・紹介している。

(参考) 翻訳状況

【体験記】

年度	翻訳数 (編)				合計
	英語	韓国・朝鮮語	中国語	その他	
平成 29 年度	7	7	7	8	29
平成 30 年度	5	5	5	3	18
令和元年度	5	5	5	0	15
累計	164	164	164	44	536

※「その他」フランス語 7 編、ドイツ語 4 編、イタリア語 3 編、スペイン語 5 編、ポルトガル語 3 編、ロシア語 6 編、ベンガル語 1 編、カザフ語 1 編、マレー語 2 編、アラビア語 2 編、ベトナム語 3 編、ハンガリー語 2 編、モンテネグロ語 2 編、オランダ語 2 編、ヒンドゥ語 1 編

【被爆者証言映像】 ※ () 内数は字幕数

年度	翻訳吹替え・字幕数 (編)				合計
	英語	韓国・朝鮮語	中国語	その他	
平成 29 年度	7(5)	7(5)	7(5)	2(2)	23(17)
平成 30 年度	4(2)	4(2)	4(2)	0	12(6)
令和元年度	3(3)	3(3)	3(3)	0	9(9)
累計	50(18)	50(18)	50(18)	34(16)	184(70)

※「その他」オランダ語 3 編、ロシア語 8 編、フランス語 8 編、ドイツ語 8 編、アラビア語 3 編、ベトナム語 2 編、ポルトガル語 2 編

11. 平和ボランティア育成外国語講座の開催

国際交流事業の一環として、祈念館や被爆建造物等の外国語による案内や平和関連国際会議等において通訳の出来るボランティアを育成するため、毎年、英語、韓国・朝鮮語、中国語の各講座を実施している。専門的・実践的な知識の習得に力を入れており、より高度なレベルでの対応ができるよう育成を行った。令和元年度は5月～10月に開催した。

(参考) 実績

年度	開催講座 () : クラス数	受講者 (修了者) 数
平成 29 年度	英語 (1)、韓国・朝鮮語 (2)、中国語 (1)	31 人
平成 30 年度	英語 (1)、韓国・朝鮮語 (1)、中国語 (1)	28 人
令和元年度	英語 (1)、韓国・朝鮮語 (2)、中国語 (2)	40 人

※ 令和元年度修了者内訳 英語 17 人、韓国・朝鮮語 14 人、中国語 9 人

※ 修了者は (公財) 長崎平和推進協会の平和ボランティアとして登録され、依頼により当館や資料館の案内、国際会議での対応等に派遣される。

〈ボランティア登録者数〉英語 76 人、韓国・朝鮮語 6 人、中国語 17 人



語学講座受講者 (英語)
フィールドワークの様子

12. 被爆体験記朗読事業の実施

被爆者が高齢化し、被爆者の声を直接聴くことが難しくなっていく中、被爆体験を継承していくあらたな方策の一つとして平成 23 年度から事業を開始した。収集した体験記を有効に活用していくという側面を有し、朗読ボランティア育成と朗読ボランティアの派遣を柱とする。平成 24 年度と平成 25 年度の 2 年間で朗読ボランティア育成講座を実施・完了した。講座修了者のボランティア登録を受け、平成 26 年度から祈念館内での定期朗読会の開催、市内・近隣の小中学校等への派遣朗読会の実施等、本格的に活動を行い、さらに朗読ボランティア「永遠の会」を結成し、平成 27 年度は「永遠の会」を組織化。世話人会を結成し、代表、副代表を選出。事務局と連携しながら、自主的な運営のもと活動を広げている。平成 30 年度は、第 2 期生育成講座を実施・完了した。

(参考) 実績

メンバー構成 (令和 2 年 3 月末現在) 76 人 (女性 68 人、男性 8 人)

年 度	常駐朗読	定期朗読会 (*9日を忘れない)	国内朗読派遣	その他(朗読劇など)
平成29年度	182回	16回(13回)	39回(学校・団体他)	6回(映画フォーラム・救護所イベント)
平成30年度	178回	18回(15回)	57回(学校・団体他)	1回(映画フォーラム)
令和元年度	174回	14回(11回)	98回(学校・団体他)	1回(Love&Peace Message)

※8月は8日・9日に実施

〈活動の様子〉



朗読会「9日を忘れない」
(資料館いこいの広場)



Nagasaki Love&Peace Message
(交流ラウンジ)



第15回定期朗読会
(交流ラウンジ)

13. 家族・交流証言者等の派遣事業の実施

被爆の実相、平和への想いを次世代に語り継ぐため、平成30年度から「家族・交流証言者」および「被爆体験記朗読ボランティア」を全国の学校等へ無料で派遣し、家族・交流証言講話及び被爆体験記朗読会を開催した。国内外の数多くの児童、生徒、一般市民が聴講した。

(参考) 【長崎市外派遣】実績

年度	全件数	長崎市外		
		家族・交流	被爆体験記	聴講者数
平成30年度	102件	66件	36件	21,678人
令和元年度	177件	101件	76件	33,587人
累計(H30年度開始)	279件	167件	112件	55,265人

〈派遣の様子〉



家族・交流証言講話
(8/26 愛知県立春日井工業高等学校)



被爆体験記朗読会
(6/27 西海市立大島東小学校)

【海外派遣】

年度	場所	期間	件数	聴講者数
平成30年度	ポルトガル共和国 (リスボン市・ポルト市・カスカイス市・エストリル市)	9月29日～ 10月4日	9件 ※家族・交流証言講話 4件 体験記朗読会 5件	425人
令和元年度	マレーシア共和国 (クアラルンプール市)	10月11日 ～10月14日	6件 ※家族・交流証言講話 3件 体験記朗読会 3件	359人



国立ピープルロード修道院
附属高等学校



マラヤ大学



マレーシアプトラ大学

14. 被爆体験伝承者等派遣事業語学研修の実施

来日外国人に対して、また国外においても講話が行えるようスキルアップを図るため、被爆体験の家族・交流証言者および被爆体験記朗読ボランティアについて、語学等の研修を実施した。

- (1) 海外派遣決定者語学研修（英語） ※個別指導
 - ・受講者 2人（家族・交流証言者1人、被爆体験記朗読ボランティア1人）
 - ・実施内容 令和元年8月～10月 週1回 計7回実施
- (2) 家族・交流証言者語学育成研修（英語） ※グループ指導
 - ・受講者 4人
 - ・実施内容 令和元年11月～令和2年3月 週1回 計17回実施
- (3) 被爆体験記朗読ボランティア語学育成研修 ※グループ指導
【中・上級者向けレッスン】
 - ・受講者 11人
 - ・実施内容 令和元年12月～令和2年3月 月1回 計4回実施

【初級者向けレッスン】

- ・受講者 10人
- ・実施内容 令和元年11月～令和2年2月 月2回 計8回実施

15. ピースネット事業

祈念館への訪問が難しい遠隔地の児童・生徒に向けて、被爆の実相を伝えることにより平和を希求する心を育むことを目的に、インターネットによる会議システムを利用して、祈念館と現地をつなぎ被爆体験講話を中心とした平和学習を実施している。

現在、被爆者が直接出向くことなく現地に居ながらにして遠隔地と交流ができる特性を活用して、祈念館と海外の大学、自治体等との海外ピースネットも実施している。

(参考) 実績 ※ () 内数は海外との数

年度	回数	利用団体数
平成29年度	22(3)回	22団体
平成30年度	23(6)回	26団体
令和元年度	21(3)回	21団体
累計(平成16年度から)	379(41)回	307団体

〈ピースネットの様子〉



2019.10.25 ウクライナ共和国第7公立学校



2019.12.12 岸和田市立中央小学校

16. 修学講習(被爆体験講話)の実施

原爆の被害の実相を広く国の内外に伝え、永く後代まで語り継ぐという当館の理念を実現するため、修学旅行生などの団体に会場として「研究室」を提供し、平和学習のために被爆体験講話を実施している。

(参考) 実績

年度	回数	利用者数
平成 29 年度	149 回	3,963 人
平成 30 年度	97 回	2,376 人
令和元年度	153 回	4,040 人
累計 (平成 20 年度から)	1,551 回	39,282 人

※会場収容人数は最大 40 人。講話前後には追悼空間での平和集会を実施する学校も増えている。

17. 国際協力・交流プログラムの実施

平成 21 年度のマレーシア海外原爆展の開催を契機としてアジアの若者との連携ができつつあることから、長崎祈念館が特徴とする国際協力・交流にかかる平和ネットワークの構築とその広がりをめざし、各国の若者が被爆地・被爆者を知る平和学習、長崎で平和活動に取り組む若者との意見交換等の交流、被ばく医療を含めた国内外の専門家によるシンポジウムなどの各プログラムを実施している。

(参考) 実績

年度	国名/招聘	期間
平成 29 年度	マレーシア 7 人、韓国 6 人、中国 5 人	2 月 1 日～2 月 7 日
平成 30 年度	マレーシア 7 人、韓国 6 人、中国 6 人	11 月 14 日～11 月 20 日
令和元年度	マレーシア 7 人、韓国 5 人	2 月 7 日～2 月 14 日
累 計 (平成 22 年度～)	マレーシア 72 人、韓国 60 人 インドネシア 1 人、中国人 24 人	—

※

長崎祈念館・長崎原爆資料館・被爆遺構見学、ホームステイ、メインプログラム「Youth Conference in Nagasaki」(2/10～13)への参加。当プログラムでは、長崎市長による長崎が取り組む平和行政の講義、被爆者による被爆体験講話を聴講したのち、国内大学の留学生や長崎の大学生らと国際平和ネットワーク構築のためにグループディスカッション・報告会を実施した。(13 か国 33 人が参加)

〈プログラムの様子〉



祈念館の見学を行うプログラム参加者



長崎市長の講義を真剣に聞く参加者



「Youth Conference in Nagasaki」にてディスカッションを通じ、互いの認識を共有する参加者

18. 国際平和祈年祭 (Nagasaki Love & Peace Message) の実施

これまで実施していた「長崎国際平和映画フォーラム」をリニューアルして開催。映画だけでなく、朗読や音楽の持つ発信力に着目・依拠して、原爆被爆の実相、平和の尊さを特に若い世代に伝えていくことを目的とした。会場を祈念館だけとして、映画上映やピアノ・ギター演奏、朗読ボランティアによる被爆体験記朗読劇などを実施した。

(参考) 実績

年 度	上映映画数	期 間	来場者数
平成 29 年度	4 作品	12 月 9 日・10 日 (2 日間)	1,900 人
平成 30 年度	4 作品	12 月 15 日・16 日 (2 日間)	1,100 人
令和元年度	2 作品	12 月 15 日 (1 日間)	500 人
累計 (平成 22 年度から)	76 作品	—	14,255 人

※主な上映作品等 (令和元年度)

【映画】 「聲の形」「ひろしま」

【その他プログラム】

劇団 TABIHAKU による音楽とおはなし、想いを未来につなぐ朗読の会・つくばによる朗読劇「明日が来なかった子供たち」、永遠の会による朗読「鬼のごたる」など



劇団 TABIHAKU によるオープニング



永遠の会による朗読劇「鬼のごたる」

19. 情報展示システムの保守・管理並びに展示整備基本構想の策定

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性を確保するため、情報展示システムの保守・管理を行った。

また、中長期的観点から、来館者に対する新たなサービスの提供・利便性の向上について、展示方法や設備の改修等も含めた「情報システム機器更改展示整備基本構想」を広島祈念館とともに策定した。

20. 中長期修繕計画の策定

平成 15 年の開館から 17 年が経過し、多くの設備が経年劣化しているため、開館後 30

年間の修繕計画を策定した。

21. その他（来館者増加対策等）

- ・学校関係者、旅行代理店に対し、平和集会や献花式での「追悼空間」の利用を促した。

（参考）実績 【追悼空間利用】※平成19年度から統計開始。

年 度	件 数 (学校数)	利用者数
平成29年度	291 件	16,952 人
平成30年度	351 件	19,491 人
令和元年度	411 件	24,139 人
累 計 (平成19年度～)	1,802 件	103,019 人

- ・祈念館のPR動画（15秒2パターン、3分）を資料館の観覧出口付近の動線上で常時放映することで祈念館の周知と来館誘致を図った。
- ・外国人向け英語のフリーペーパーや、夏休みの子供向け新聞、新年の新聞の被爆75周年特集頁に記事や広告を掲載することで、幅広い層に祈念館をアピールした。
- ・被爆体験記を活用し、遺影・手記閲覧室等で企画展示を実施するとともに、企画展のテーマを基にした朗読ボランティアによる朗読会を実施した。また、企画展では海外の方にもわかるようあらすじ等の英中韓訳を付記した。
- ・長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）や被爆者団体、長崎県、長崎市等の各関係機関との連携を図り、「核兵器廃絶市民講座（核兵器廃絶長崎連絡協議会主催）」「ナガサキアートプロジェクト オープニング（NAHEA 主催）」の開催等、交流ラウンジでの平和関連行事を開催（令和元年度55件）した。

〈交流ラウンジ活用例〉



長崎国際交流協会、長崎平和協会共催による
外国人による日本語弁論大会
(交流ラウンジ)



NAHEA 主催による
ナガサキアートプロジェクト 2019 開会式
(交流ラウンジ)

22. 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取り組み

- ・臨時休館：令和2年2月29日から3月31日まで（以降も継続休館）
- ・主催事業の中止・延期：被爆体験記の朗読会、被爆者健康講話などを中止した。

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の入館者数について（原爆資料館比較）

平成29年度

区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比	資料館 対前年度比
H29 4月	8,078	44,588	18.1%	103.4%	116.1%
5月	15,872	103,355	15.4%	135.1%	168.8%
6月	13,901	58,127	23.9%	104.0%	104.9%
7月	10,271	44,582	23.0%	92.3%	101.8%
8月	13,670	72,253	18.9%	87.8%	99.1%
9月	11,595	56,144	20.7%	90.9%	80.7%
10月	16,025	95,464	16.8%	100.1%	99.3%
11月	13,265	75,348	17.6%	96.4%	90.8%
12月	8,316	39,757	20.9%	110.7%	94.6%
H30 1月	6,852	31,593	21.7%	104.4%	97.3%
2月	7,148	34,861	20.5%	101.1%	95.2%
3月	9,017	49,242	18.3%	102.8%	93.5%
合計	134,010	705,314	19.0%	101.5%	103.1%
累計	1,556,672	10,153,709	15.3%	—	—

平成30年度

区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比	資料館 対前年度比
H30 4月	8,791	48,051	18.3%	108.8%	107.8%
5月	15,084	95,146	15.9%	95.0%	92.1%
6月	13,243	51,824	25.6%	95.3%	89.2%
7月	10,979	34,051	32.2%	106.9%	76.4%
8月	14,793	62,110	23.8%	108.2%	86.0%
9月	12,363	52,685	23.5%	106.6%	93.8%
10月	16,186	92,334	17.5%	101.0%	96.7%
11月	15,970	82,758	19.3%	120.4%	109.8%
12月	7,427	38,962	19.1%	89.3%	98.0%
H30 1月	6,753	35,301	19.1%	98.6%	111.7%
2月	7,576	37,307	20.3%	106.0%	107.0%
3月	9,940	47,818	20.8%	110.2%	97.1%
合計	139,105	678,347	20.5%	103.8%	96.2%
累計	1,695,777	10,832,056	15.7%	—	—

令和元年度

区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比	資料館 対前年度比
H31 4月	9,666	51,854	18.6%	110.0%	107.9%
R1 5月	16,758	104,208	16.1%	111.1%	109.5%
6月	15,501	56,386	27.5%	117.1%	108.8%
7月	11,592	39,242	29.5%	105.6%	115.2%
8月	14,958	65,575	22.8%	101.1%	105.6%
9月	13,418	53,959	24.9%	108.5%	102.4%
10月	22,711	108,372	21.0%	140.3%	117.4%
11月	18,465	89,317	20.7%	115.6%	107.9%
12月	9,091	48,433	18.8%	122.4%	124.3%
R2 1月	7,880	32,848	24.0%	116.7%	93.1%
2月	7,427	29,734	25.0%	98.0%	79.7%
3月		12,719	—	—	26.6%
合計	147,467	692,647	21.3%	106.0%	102.1%
累計	1,843,244	11,524,703	16.0%	—	—

令和2年度の事業計画

広島祈念館 1頁～4頁

令和2年度 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の事業計画

1. 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開【資料1、P1参照】

広島県内各市町窓口での葬祭料給付申請時や、平和記念式典への参列案内時に遺影登録の案内をするほか、8月1日から6日まで原爆死没者名簿への登載確認等との共同窓口の設置を行い、新規登録を呼びかける。

2. 被爆体験記等の収集・整理・公開【資料1、P2参照】

被爆継承担当部署や広島平和記念資料館と連携し、また、広報紙への掲載やマスコミへの情報提供のほか被爆者証言ビデオ収録など、あらゆる機会をとらえて被爆体験記の提供を呼びかけ収集に努める。

収集した被爆体験記は、逐次データベース化を行うとともに、イメージデータ化及びテキスト化を推進し館内で公開する。

3. 企画展の開催【資料1、P3参照】

情報展示コーナー（地下1階）において、毎年定めるテーマに沿って企画展を開催する。関連資料を展示し、被爆体験記をディスプレイで閲覧できるようにするとともに、被爆者の証言映像及び被爆者自身が描いた「原爆の絵」等を交えた映像作品を制作し上映する。また、映像資料はインターネットに掲載するとともに、平和学習資料としてDVDや資料の貸し出しを行っている。

(1) タイトル：「時を超えた兄弟の対話 ―ヒロシマを描き続けた四國五郎と死の床でつづった直登の日記―」

(2) 場 所：情報展示コーナー（地下1階）

(3) 期 間：令和2年1月1日(水)～12月29日(火)

画家としての才能を、反戦・核兵器廃絶を訴えることに全て捧げた四國五郎(1924-2014)。そのきっかけは、最愛の弟・直登(1927-1945)が原爆により18歳で短い生涯を閉じたことだった。企画展では、被爆当日から亡くなるまで、病床でつづられた弟・直登の日記を中心に、兄・五郎の追悼文や作品を紹介しながら、時を超えた2人の対話を再現している。(3面シアター映像約30分、四國直登の日記(現物)と四國五郎実作品約20点、館長論文及び四國五郎の追悼記、作品集等)

4. 被爆体験記執筆補助【資料1、P4参照】

被爆者の高齢化に対応し、体験記の執筆が困難な被爆者を対象に、聞き取り・代筆を行い、被爆体験記の収集増加を図る。

聞き取り予定人数：12人（一般公募）

5. 被爆者証言ビデオ（国外在住被爆者）制作【資料1、P4参照】

令和2年度は収録の対象となる証言者を適正数確保することが困難なため収録を行わない。

6. 被爆者証言ビデオ（県外被爆者）制作【資料1、P5参照】

被爆体験を次の世代へ継承するため、県外在住の被爆者を対象に、その体験談をビデオに収録し、館内の体験記閲覧室で公開する。（平成15～18年度に引き続き、平成21年度から実施）

- (1) 収録者数：関東、中部、関西地方（1都2府21県）在住の被爆者20人程度
（福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県、和歌山県、滋賀県、奈良県、三重県在住）
- (2) 収録者：各都道府県の被爆者団体からの推薦に基づき証言者をお願いする。

7. 多言語化対応事業【資料1、P5参照】

海外から来館する多くの人に、母国語で被爆の実相を伝えるため、多言語化を推進する。

(1) 被爆者証言ビデオ

証言内容について、中国語、韓国・朝鮮語、の2言語に翻訳する。この他、被爆者証言の世界化ネットワークとの連携により、英語、中国語、韓国・朝鮮語、アラビア語、スペイン語、ドイツ語、ハンガリー語、フランス語、ポーランド語、ポルトガル語、ヒンディー語に翻訳する。

翻訳した証言内容から字幕入り証言ビデオを作成し、これまで翻訳している言語と合わせ、23言語の証言ビデオを館内公開する。

- (2) 被爆体験記を、ノルウェー語の1言語に翻訳し、館内公開する。

8. 被爆体験記の朗読事業【資料1、P5参照】

被爆体験記を朗読することにより、特に次代を担う子どもたちへ、被爆体験の継承を図るため、広島市内やその近郊において被爆体験記朗読会を開催する。また、朗読セットを貸出しする。

- (1) 修学旅行生を対象とした朗読会や出前朗読会、定期朗読会の開催：200回
- (2) 海外からの来館者を対象にした英語朗読会の開催：毎月3回
- (3) 朗読セット貸出し：20団体

9. 被爆体験伝承者等の派遣【資料1、P6参照】

広島市が養成している被爆体験伝承者及び上記7の被爆体験記の朗読を行うボランティア並びに令和2年度から被爆体験証言者の国内外への派遣を行う。なお、実施にあたっては、広島市と調整を図るとともに、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館と協力・調整を行い、また、関係機関への周知を図る。

伝承者等派遣予定件数：約500件

10. 被爆体験伝承者等に対する語学等の研修【資料1、P7参照】

上記8の被爆体験記の朗読ボランティア及び上記9の被爆体験伝承者について、語学等の研修を実施する。

11. 広島平和学習セミナーの開催【資料1、P7参照】

平和学習を目的として多くの修学旅行生に来館してもらうため、広島市と共同で学校関係者及び旅行会社（教育旅行部門）を対象に、広島での平和学習や体験学習などを紹介する広島平和学習セミナーを開催する。

- (1) 開催地：新宿区・横浜市・大阪市・神戸市
- (2) 開催時期：令和2年9月（予定）

12. インターネットによる情報提供【資料1、P8参照】

広く内外に情報発信するため、外部提供について同意の得られた被爆体験記及び被爆者証言ビデオについて、順次、ホームページへ掲載する。また、収集した図書については、随時、ホームページの図書検索画面に追加し、紹介する。

また、スマートフォンやタブレット端末の普及、多言語による情報発信、セキュリティの強化等に対応するため、ホームページを全面的にリニューアルする。

13. 情報システムの保守・管理及び機器更改等に係る改修業務【資料1、P9参照】

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性を確保するため、情報展示システムの保守・管理を行う。

また、前年度に策定した「情報システム機器更改・展示整備基本構想」を具体化させた基本計画を策定する。

令和2年度の事業計画

長崎祈念館 1頁～5頁

長崎祈念館の事業計画

1. 企画展の開催【資料2、P2参照】

- 引き続き、テーマを定め、祈念館が収集所蔵する被爆体験記などの中からテーマに沿ったものを選び、遺影・手記閲覧室等で企画展を開催したい。
- 被爆75周年企画として、7月下旬～8月中旬頃に、追悼をテーマに多角的な視野で原爆の実相を伝えたい。
- (1) 被爆体験記企画展
 - ①タイトル未定（令和2年7月下旬～8月中旬予定）

2. 被爆体験記執筆補助【資料2、P2、P3参照】

- 引き続き、体験記の執筆が困難な被爆者を対象として、職員が聞き取りと代筆を行ない、館内の手記・体験記閲覧室で公開したい。
 - 昨年度は長崎市原爆被爆対策部の協力を得て、実施したところ、多くの収集ができたため、今年度は長崎県原爆被爆者援護課の協力を得て、長崎市を除く県内6,000人の被爆者の方に、体験記寄贈ならびに執筆補助、証言映像への協力依頼の呼びかけを実施したい。
- 聞き取り予定人数：20人

3. 被爆者証言映像（国内・国外）の制作【資料2、P3参照】

- 引き続き、被爆者団体等の協力を得て、国内及び国外で被爆者証言映像を収録し、館内の手記・体験記閲覧室で公開したい。
 - 広島祈念館と連携し、長崎被爆者について関西地方での収録を行いたい。
 - 昨年同様、在韓国被爆者について、韓国赤十字社に協力を依頼し、制作目的の適切な理解のもとで円滑に収録を行うため、当館の韓国・朝鮮語ネイティブ職員の同行を行なう。
 - 国外はこれまで、北中南米での収録を行ってきたが、他地域（欧州など）でも収録したい。
 - (1) 収録数：九州地方在住被爆者5人程度、関西地方在住の被爆者5人程度（国内）
韓国在住の被爆者5人程度、北中南米地域3人程度、欧州地域1人程度（国外）
 - (2) 収録者：被爆者団体等からの推薦、又は現地調査に基づき、収録者を確保する。
- 被爆者が高齢化し被爆者による被爆体験講話が難しくなっている。そのため、実際にその場に被爆者がいるかのように受け答えのできる伝え方を検討している。引き続き、被爆者の映像録画等を実施したい。

4. 被ばく医療情報の提供【資料2、P3、P4参照】

○引き続き、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の協力のもと、被爆者を対象とした被爆者健康講話を実施したい。今年度は、祈念館で実施した講話を録画したものを編集し、ケーブルメディアなどを利用し、五島市や他の地域に配信したい。また、DVDの貸し出し等も実施したい。

開催回数：年10回予定

○引き続き、平和情報コーナー1において、開館20周年に向けて、展示の在り方について検討をしたい。

5. 海外原爆展【資料2、P5参照】

世界的に核廃絶の機運が高まりを見せるなか、さらなる機運醸成のため引き続き実施することとしたい。現在、次のとおり候補地と調整を行っている。

【令和2年度海外原爆展開催候補】

候補地	ライデン市（オランダ王国）
候補地選定の経緯	① 長崎市とライデン市は姉妹都市提携を結んでおり、長崎に対する理解が深く、かつ被爆75周年にあたる2020年に原爆展を開催することで理解が得られやすいと考えられる。 ② 核保有国が存在するヨーロッパで開催することで、核廃絶への機運を高めていくことができると考えられる。
概要	① ライデン市（人口約12万人） 展示などを行う場所として、日本博物館シーボルトハウスを考えている。 ② シーボルトハウスでは、独自企画として、同時期に、長崎原爆資料館と広島平和記念資料館の収蔵品も展示する予定。
開催時期	2020年7月16日（木）～11月8日（日）当初予定 ※新型コロナウイルスの影響で、シーボルトハウスが現在休館中であり、変更を余儀なくされているが、開催時期の見通しがつかない状況である。

6. 被爆者証言映像、手記・体験記の多言語化【資料2、P6参照】

○被爆の実相と被爆者の声を広く世界に発信するため、引き続き、英語、韓国・朝鮮語、中国語を中心として多言語化（翻訳・吹替え・字幕）を実施したい。

○広島市・長崎市が企画実施するヒロナガ原爆展で配布するための資料として、開催地の言語（英語）で被爆体験記を提供したい。

7. 平和ボランティア育成外国語講座【資料2、P7参照】

○引き続き、中国語・韓国語の中級講座を開講することで、新規受講生を開拓し、外国語ボランティアの新規開拓につなげたい。

8. 被爆体験記の朗読事業【資料2、P7参照】

○引き続き、館内での定期・随時の朗読会開催及び市内小中学校等への派遣、来館者を対象とした館内での朗読を実施するとともに、厚労省収集の体験記を読み込み朗読の素材

の開拓（編集作業も含む）を進めたい。

○派遣事業での派遣が増加していることから、派遣朗読会のプログラム作成を継続したい。

○ホームページ上で、朗読の様子動画を掲載するなどPRにも励みたい。

○被爆75周年企画として、被爆体験記の朗読に取り組んでいる女優をゲストに招き、朗読指導交流会を実施したい。

(1) 館内朗読会：3回程度（祈念館交流ラウンジ等、国際平和祈念祭も含む）

(2) 派遣朗読会：長崎市内外において、学校や一般の依頼に基づき、派遣して朗読会を開催する。

(3) 常駐朗読会：①毎週土・日13:00～16:00（5～11月には火・水・木も実施）

祈念館手記閲覧室にて実施

②毎月9日11:00～11:30「9日を忘れない」を原爆資料館「いこいの広場」にて実施

9. 家族・交流証言者等の派遣および語学研修の実施

○引き続き、長崎市が養成している家族・交流証言者を、国内、国外へ派遣を行いたい。

上記の被爆体験記の朗読ボランティアも同様に派遣したい。

今年度からは、被爆者ご本人の国内外への派遣にも取り組みたい。

○また、国外への派遣に伴い、英語ネイティブによる語学研修を実施し、スキルアップを図りたい。さらに海外からの来館者に対して英語で実施できるよう、同様に語学研修を実施したい。

○円滑な派遣を実施するために、インターネットによる派遣申込システムを構築したい。

(1) 国内での派遣申込数：41件（令和2年4月29日現在）

※都道府県別数は別紙のとおり。

10. ピースネット事業の実施【資料2、P10参照】

○被爆者の高齢化が進むなか、長崎に居ながら遠隔地に被爆者の声を届けることができるインターネット会議システムの特徴を生かし、引き続き、北海道や東北地方などの長崎に来ることが難しい遠隔地の学校等を中心に、海外の大学や海外原爆展のネットワークを通じて海外の都市とも積極的に実施していきたい。

○引き続き、ピースネットを用いた市外・海外の小中学校と長崎市内の小中学校の平和交流を実施したい。

また、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、時期的（6月～7月）に被爆者を派遣できない、長崎市内外や長崎県内の平和学習にも利用してもらいたい。

(1) 国内：40か所程度（長崎市内外・県内：20か所程度、県外20か所程度）

(2) 海外：5か所程度

11. 国際協力・交流プログラム、国際平和祈念祭（仮称）の実施【資料2、P11参照】

○引き続き、国際的な平和ネットワークの構築を目的として、おもにアジアの学生など

を招へいして行う国際協力・交流プログラムを実施したい。メインプログラムとして、昨年度実施した「Youth Conference in Nagasaki」を、今年度は被爆 75 周年企画として、長崎市などと連携し、さらに多くの若者らが参加する会議として実施したい。

○若い世代への被爆体験の継承を目的として、映画や写真展、朗読ボランティアによる被爆体験記朗読など、市民が参加できるイベントを企画し、組み合わせて行う長崎国際平和祈念祭「Nagasaki Love&Peace Message」を実施したい。

(1) 国際協力・交流プログラム

開催時期：令和3年2月頃を予定

参加者：マレーシア、韓国、中国、ベトナムおよび国内の留学生などを招聘したい。

(2) 長崎国際平和祈念祭「Nagasaki Love&Peace Message」

開催時期：令和2年12月頃を予定

内容：映画上映、音楽演奏、写真展、朗読ボランティアによる朗読等

12. 施設修繕事業

○昨年度実施した、中長期保全計画を基に修繕等をすすめていきたい。

○祈念館開館 20 周年に向けての展示内容等を検討したい。

これらの事業の実施にあたり、新型コロナウイルスの影響により、実施が困難な場合は、実施規模の縮小や時期の変更等できる限りの調整を行っていきたい。

以上

都道府県別申込状況

2020/4/29 現在

41 件 内訳

(内訳)

	都道府県名	件数	家族・交流証言講話	被爆体験記朗読会	被爆体験講話
1	北海道	3	3		
2	青森県	0			
3	岩手県	0			
4	宮城県	0			
5	秋田県	1			1
6	山形県	0			
7	福島県	0			
8	茨城県	0			
9	栃木県	1	1		
10	群馬県	0			
11	埼玉県	0			
12	千葉県	1	1		
13	東京都	2	2		
14	神奈川県	0			
15	新潟県	1	1		
16	富山県	0			
17	石川県	0			
18	福井県	0			
19	山梨県	0			
20	長野県	1			1
21	岐阜県	1	1		
22	静岡県	2		2	
23	愛知県	3	3		
24	三重県	1	1		
25	滋賀県	1	1		
26	京都府	1	1		
27	大阪府	5	5		
28	兵庫県	1	1		
29	奈良県	0			
30	和歌山県	0			
31	鳥取県	0			
32	島根県	0			
33	岡山県	1	1		
34	広島県	0			
35	山口県	0			
36	徳島県	0			
37	香川県	0			
38	愛媛県	0			
39	高知県	0			
40	福岡県	1		1	
41	佐賀県	2		2	
42	長崎県	10	3	7	
43	熊本県	0			
44	大分県	0			
45	宮崎県	0			
46	鹿児島県	2	1	1	
47	沖縄県	0			
48	海外	0			
	計	41	26	13	2

入館者からの感想や意見・要望等

広島祈念館 1頁～3頁

広島祈念館における入館者からの感想や意見・要望等

1. 概要

平成14年9月から「感想ノート」を置き、入館者に感想や意見等を自由に記入してもらっている。

外国語（英語、韓国・朝鮮語、中国語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、イタリア語等）の記述が多く見受けられる。

2. 主な意見・要望等

(1) 施設について

- 入館者が少ないことが残念。資料館に来館した人が、もっとこちらにも立ち寄って頂けるように出来ないのかと思います。（一部抜粋）

(2) 展示について

- お1人お1人が命をかけ、守るべきもののために勇敢に戦ったことを「誤った国策」などと表現なさることは、お1人お1人のお名前、お顔、思いを大切にされたコンセプトの展示をなさる貴館のご姿勢と、果たして矛盾はないのでしょうか。（一部抜粋）

3. 感想（感想ノートの原文のまま掲載）

(1) 祈念館について

- 体験していない今の子どもたちだからこそ、知るべきだと思います。知識を得て、同じことを繰り返さないように。外国の方のほうが利用者として多いのは喜ばしいことかもしれませんが、では日本人は…？
- おじの、被爆体験記の所在を知ることができました。おじは存命中、被爆の事を語らなかったので、詳細がわかりませんでした。ありがとうございました。
- どうしても資料館の方に行くことが出来ず、広島に来た際はこちらに来館しています。それでも、胸がつまります。一発の原爆が、70年経っている今でも人々を苦しめることを世界に語らなければ！と実感します。また寄らせて頂きます。

(2) 展示について

- 体験談はパネルや写真より心に残ります。
- 「私、死ぬる」という言葉が深く胸に突き刺さりました。痛かっただろう、苦しかっただろうと思うと辛い気持ちになります。安らかに。

- 私は現在、念願だった中学校教師をしています。本日ここに来て、映像の水槽に覆い被さるようにして子どもたちを守り死んでいった先生の姿に胸が打たれました。自分ができることは何か、平和とは何か、考えたり、尊ぶ機会を作っていたいと思いました。自分もそのような先生になれるよう頑張ります。
- 四國五郎さんの展示。とてもよかったです！私も平和のために絵を描きたいと思いました。

(3) 平和に向けての主張

- 日本人よりも外国人の方がこの資料館に来ており、外国人の方を尊敬すると同時に、もっと日本人が平和について知り、原爆のことを世界に広める必要があるのではないかと思います。これからの日本を作っていくことになるであろう僕はもっと平和について学ぶ必要があります。
- わたしは、ひいおじいちゃんに会ったことがない、だからいつもここに来て、ひいおじいちゃんの話の聞いたり顔をみたりしている、ひいおじいちゃんも動画で言っていたが、「こわかった」「人があちこちに死んでいる。」と……当時、その場所にいたひいおじいちゃんはとてもこわかったと思う。あちこちにたおれ死んでいる人、けがをしている人、なにもしてないのにころされた人。死んだ人の家族。とてもたえられなかったと思う。このことから、みんなのために、自分のために、生きることは大切だと思った。わたしはこのようなことがまた、おこってはいけない、だから外国のかた、海外の方にこれからも知らせていきたい、もっとげんばくのことをしてもらいたい。
- 平和学習をしようと思い、友人と二人で訪れました。被爆された方の遺品、手記を見るたび何とも言えない、言い表しようがない気持ちになりました。今回広島へ訪れ自分が感じたことや、見たことをより多くの人に伝えるのが自分の役割であり、未来にこのようなことがおきないように、努力しようと感じました。

4. 外国人からの感想

(1) 祈念館について

- この祈念館の彫刻と建築は失った魂を讃えるに相応しい素晴らしいものだ。(キプロス)
- 閲覧室のスタッフに感謝します。あなたが私の祖母の証言の記録を見つけてくれたことに永遠に感謝します。彼女の思い出を生かしてくれてありがとう。(国名不詳/英語)

- ここを訪れ、証言を聞いて私が感じたことはとても言葉には出来ません。謹直で教育的な方法でこの歴史の一部を提供して下さり、ありがとうございます。(国名不詳/英語)
- 今も現実に戦争(紛争)は起こっているけどこの祈念館が戦争(紛争)のない世界を促進できる事を願っています。(国籍不明/中国語)

(2) 展示について

- 再び起きるべきではない戦争の決して忘れてはならない体験記がとても印象的でした。(オランダ)
- 原爆にあった個人個人の体験談のビデオは非常に感動的で力強かったです。わたしはこの制作にかかわられた全ての方々に感謝いたします。(国名不詳/英語)
- 被爆者の声を残してくれてありがとう。そして彼らの体験を世界に伝えてくれて。世界は戦争が生んだ悲しい都市のことをもっと知り、学ぶ必要がある。(国名不詳/英語)

(3) 平和に向けての主張

- この悲劇の犠牲者や、その遺族が直面した痛みや苦難を感じて 私は泣きました。とても胸が張り裂けました。政府がこの展示を”平和に生活する事が前へ進む唯一の方法である。”という世界への例としてとりあげる前向きな努力をととても高く評価します。平和とより良い意識が世の中に行き渡りますように。パキスタンと日本の両方を想っている一人のパキスタン人より。(パキスタン)
- 私は学校で、広島で起こった出来事の多くを学びましたが、実際にここに来て、たくさんの恐ろしく痛ましい話を聞いて、私は自分の国の行動に恥ずかしさを感じずにはられません。今は試練の時です。この場所からは、憎しみの代償だけでなく、愛の価値や、人類愛がいかに互いの誤解から私たちを救うかを学ぶことを願っています。世界の平和への絶え間ない支援と支持に加え、将来の世代の学習を促進するという彼らのコミットメントにおいて、ここの地方政府に感謝しています。互いの違いは脇に置き、豊かな未来の文明を作るために協力しましょう。(アメリカ)
- この重要な場所をありがとう。私達はいつまでも平和を願っています。(オーストラリア)

入館者からの感想や意見・要望等

長崎祈念館 1頁～3頁

長崎祈念館における入館者からの感想や意見・要望等

1. 概要

平成17年2月から「ご意見ノート」を置き、入館者に感想や意見等を自由に記入してもらっている。国際観光船の入港も多く、外国語（英語、ハンデル、中国語、アジア・ヨーロッパ各言語）での感想・意見も多くあった。

2. 主な意見・要望等

特に無し。

3. 感想（感想ノート原文のまま掲載）

(1) 祈念館について

- こういう施設がある事を知りませんでした。約1時間半でしたが、とても心に残った1日でした。また来たいと思います。
- 原爆資料館から平和祈念館、文字通り原爆の実証を学び、平和を願うという流れを体験できた。
- 原爆投下についての書物をいくつか読み、当時、多くの方々が水を欲していたことを知り、胸がつまりました。こちらの建物も、水を亡くなった方へ送りたいという想いが伝わってきました。戦争について、正直なところ多くは知りません。今回、長崎を訪れてもっと知らなければいけないと感じました。

(2) 展示について

- ここにある多くのメッセージをできればできるだけたくさんの方々に、ゆっくりとした時間の中で受けとめてほしいと思いました。ほんとは全ての声を聞いてゆきたかったけど、ごめんなさい、限られた時間の中ですから。せめて、今日感じた事を家族や友人に話そうと思います。
- この原爆記録を学び、「今は平和で良かった」と安心するのではなく、同じことがどうしたら起こらないのか、どうしたらもっと平和な日本に、世界になるのかを私たちは考える必要があると感じました。そうすることが死没されてしまった方々への追悼にもなると思います。この祈念館を後世まで残せますように。
- 被爆体験を語り継ぐ永遠の会の方のお話（朗読）を聞いて良かったです。私の未来の子供とまた来ます。ありがとうございました。
- “「被爆を語る」の映像”大変に心を打たれました。

(3) 平和に向けての主張

- 原爆が「長崎」「広島」に投下されたことを語りつぐこと。平和を祈り続けること…人間が人でいることを生涯忘れることなく。
- とても勉強になり、もっと平和な世界にしていきたいです。(10才)
- 平和をあたり前のように享受していることに気づかされました。平和をつくりあげていく為に、私がやるべき事について考え、実行していきたいと思われました。
- 東京から訪れました。広島で生まれ育ち、小さな頃から原爆の悲惨さを学んできました。長崎ははじめてでしたが、この場の空気を直に感じる事ができ、また、多くの方々が世界平和を願っている事実を目にすることができ、貴重な経験になりました。こうやって、人々の想いを場所や未来に紡いでゆくことが世界平和につながるのだと思います。

4. 外国人からの感想

(1) 祈念館について

- 感動的な祈念館。美しくて安らか。素晴らしい追悼の場所。(オーストラリア)
- 人への人による非人道的行為により被害を受けた人々のための美しく、胸の痛む祈念館。～核爆弾を廃止せよ～ (イギリス)
- とても印象的でした。考え、静かに過ごす場所です。(ベルギー)
- この都市と人々を襲った恐ろしい悲劇について、非常に強く心に訴える祈念館を訪れたこと、光栄に思います。館全体に流れる水が組み込まれていることは特に影響力がありました。世界平和を願います！(アメリカ)
- この祈念館は1945年とその後に起こった甚大な被害を静かに追悼するものである。私たちに決して繰り返してはならないと思わせてくれる。(オランダ)

(2) 展示について

- 詳細な作業、真摯な姿勢に感謝します。あなた方は最も忘れられてはいけないことを世界が覚えておくようにする助けとなっています。(オーストラリア)
- 誰もがこの祈念館を見る必要があります。とても心動かされ、また信頼できます。私は想像することすらできないけれど、これらのアーチファクトクト(展示物)を見て、被爆者の話を聞いて、彼らを感じた痛みを感じました。この祈念館は本当に素晴らしいです。アメリカが起こしてしまった苦痛について申し訳なく思います。(アメリカ)

- 祈念館を訪れたことは心が重かった。記憶しておく出来事、努力、平和以降の希望を示す祈念館の方法は美しいです。強くあれ。愛を。ニュージーランドより。ともに、亡くなった人々の思い出と将来の世代のために、より平和な未来を推進しましょう。(ニュージーランド)
- 展示内容はとても有益でした！世界の平和を願います！（シンガポール）

(3) 平和に向けての主張

- ここに来て亡くなった人または生存者の物語を聞いて、悲しいですが感動しました。世界が平和の状態まで進むように祈ります。(インド)
- 恒久平和を！（香港）
- 歴史が二度と繰り返しませんように。犠牲者、被爆者との思慮と祈り。(デンマーク)
- 戦争の惨状を見て、すべての国民が責任を持って自分の人生を生きるためには、社会に関心を持って参加し続けなければならないことを切実に感じた。もうじき小学校に入学する息子に平和な世界を伝えるため、関心を持って努力していきたいと思う。(韓国)
- 世界中永遠に戦争がないように！すべての人が平和と愛の世界で生きていけるように。(台湾)
- 戦争がないように、惨劇を二度と繰り返さないように、世界の平和万歳。(中国)
- 戦争は恐ろしい。平和な時代に生活できてうれしい。世界に平和を。(フィンランド)
- 「戦争」はあらゆるところで命あるもの、ないもの、全てを破壊しうる。私たちの精神をのぞいて。(タイ)
- 平和とは選択と決断である。平和とは人類と世界共に対しての我々の義務である。(フィリピン)
- 広島を2017年に訪れてから、長崎の原子爆弾の歴史について知りたと思っていました。被爆者の受けたつらい体験に再び心動かされました。二度とこのような悲劇を起こさないために全ての核兵器を廃棄するだけでなく原子力エネルギーも手放さなければならない。(ドイツ)
- 私たちは広島と長崎の原爆の歴史を学びました。ここに来て良かったです。神が全ての人々に平和を与えますように。(マレーシア)

